

私は、今回の東大研修のうち、特にディレクトフォースが印象に残っています。ディレクトフォースでは、まず最初に三菱商社さんの社員による会社説明がありました。写真や図を使い、商社についての知識がほとんどなかった私でも、どんな仕事をしているのかをよく知ることができました。三菱商社は、非常に多くにわたる分野で活躍していて、日本の地域の支援から海外の発展途上国の支援まで幅広く行っていることがよくわかりました。私が特に面白いと感じたところは、社員さんたちの物事の捉え方や、考え方に触れることができたところです。

例えば、商品を作るにも、社員さんたちは世界を意識していました。どれだけ生活に密着しているか、汎用性はあるか、他国で事業展開できるか、といったように、ひとつのアイデアからさらによいものにするにはどうしたらよいか考える姿勢はとても勉強になりました。また、三菱商社さんは、海外で仕事ができることもあるという点に私は興味を持ちました。社員さんたちは、海外では、言葉も通じないし、生活の仕方だって違うし、意思疎通がうまくできなくて大変だけど、そのような環境でその国や地域の人と共に仕事をする中で、自分の世界がより広がり、チームとして働くことの意義を学んだ、と楽しそうに話していました。

私は、社員さんが私たちに教えてくれたこれからの生活をどう過ごして行けばいいかのポイントが非常に心に残っています。

一つ目は、やるかやらないか迷ったら挑戦してみることに。

二つ目は、世界の中の日本を意識すること。

三つ目は、自分と「違う」ことを受け入れること。

これらは、仕事だけではなく、自分の今後の生き方を変える非常に大事なポイントだと私は思いました。この三つの事を常に頭に入れて、一日のうちのたくさんのことに気付ける、実りのある日々を二高で送っていきたいと思いました。そして、三菱商社さんは、震災復興にも多く携わっていたことにも驚きました。社員さんを現地にボランティアとして今までに3700人も送っているそうで、ここまで献身的に復興にかかわる大企業はなかなかないのではないかと思います。とても素晴らしい企業さんだと思いました。また、その復興支援も、ただの支援ではなく、電気自動車の寄贈や、海外との共同プロジェクトなど、自治体のニーズに応えた支援を行っていることにも驚きました。助成金や奨学金も多くの額を提供していて、世界だけではなく、日本にもしっかりと目を向ける会社の考え方に非常に感銘を受けました。

次に、現在三菱商社さんで働いている社員さんたちと、会社を引退した方々とのディスカッションの時間がありました。私たちの班で最初にお話を伺ったのは、会社を引退された年配の方でした。その方からは、今の若者に必要とされていることについてたくさん教わりました。例えば、昔は日本人の奥ゆかしい、謙虚で礼儀正しい姿が海外から高い評価を得ていたが、今の若者はその日本の良さを引き継いでいるのだろうか、と問われました。私は、最近のバスや地下鉄では、優先席にハンディのない人が堂々と座っていて、本来座るべき人が座れなかったりする光景が多くみられると思いました。今も高齢化が進んでいる日本が、年配の方に優しくないこの現状に疑問を抱きました。その方は、今の若者には、日本の昔からの良さを継承してほしい、とおっしゃいました。また、その方はこれからの高校生活をどんな点に留意して過ごして行けばよいかも話してくださいました。まず、日ごろからもの粘り強く考える癖をつける訓練を若いうちにしておいた方が良いことを教わりました。どんなに難しい問題でも簡単にあきらめないで、自分で考えて、悩むことが大切だと聞いて、私は高校に入ってから、難しい問題が増えて、解けない問題は手を付けずに諦めてしまうことが多くなっていたことに気がつきました。これからは、そんな自分を改めて、どんなに困難なことでも、しっかり向き合っていこうと思いました。

次に、部活にどう取り組んで行けばよいかを教わりました。部活動は、その分野の人たちの人の輪にかかわることができるし、長く続けると生涯寄り添うものになるため、継続していくことが何よりも大事だと聞きました。私は飽きっぽい性格なのですが、仲間と協力して物事を成し遂げる楽しさが味わえるため、部活には積極的に取り組んできました。これからも熱意をもって、部活に取り組み、生涯楽しむことができるようしっかりと練習を

続けて行こうと思いました。三つ目に、英語の勉強の仕方について教わりました。英語は海外での仕事に不可欠であり、一生大事にしていくべき言語であるため、若いうちから英語に多く触れていくことが大切であるとおっしゃっていました。その方は、学生時代に英語の書物に多く触れていたそうです。分からない単語を辞書で調べていくうち、だんだん読めるようになり、楽しいとかんじるようになった、と聞きました。二高でも、「多読」をやっている、私はまだあまり英語の本を読んでいないので、図書室に進んで足を運び、英語に触れる機会を増やしていこうと思えます。また、趣味を広く持つことも大事だとおっしゃっていました。私はあまり趣味が多い方ではないので、友人に話を聞くなどして、趣味を増やしていきたいと思いました。

二回目のディスカッションでは、現在働いている社員さんにお話を伺いました。その社員さんには、これから物事に取り組むとき、どんなふうを考えて、頑張っていけばよいかを教えてくださいました。まず、自分で目標を設定することが大事だということ。自分で、今自分は何をすべきなのか考え、漠然としているものでも、目先の目標に向かって努力することが、まず一步になるとおっしゃっていました。例えば部活だったら、「勝ちたい」という意志だけでは勝てないので、何を強みにするか、自分はどんなプレイヤーになりたいか、そのために毎日こつこつ何をすべきかを考えて、実践することが自分の成長につながる。そのやり方が合わなかったら別の方法を試し、試行錯誤を繰り返すうちに、自分のスタイルが確立されていく、と聞きました。私はこの言葉に非常に感心し、背中を押してもらったような気持ちになりました。若いうちは間違ってもいい、ということもおっしゃっていて、私はこれからいろんなことにチャレンジしていこうという勇気が出ました。好きなことを見つけて、大きな目標を立てて、トライアンドエラーを繰り返すことは、生きて行くうえで非常に大切であることを教わりました。次に、海外で仕事をするうえで今のうちにしておくべきことを教えてくださいました。仕事をするには、言葉より人柄が重要であるそうです。仕事では信頼が軸となるため、信頼を得るには何が大事か考えることが大切だとおっしゃっていました。そうして周りの人とうまく仕事ができることで、自分の世界が広がっていくため、今のうちにそのようなことを考えておくことが社会人になって仕事をしていくうえで必要だと聞きました。

最後に、これからどのように周囲の人とコミュニケーションをとる練習をしていけばよいかを教えてくださいました。コミュニケーションをとるうえで一番大切なのは、相手の自分とは違うところを受け入れて、相手の事を「知りたい」と思うことだそうです。そのために、自分はどんな人物か分かってもらうことが第一歩であり、面白そうなことに首を突っ込んでいくことをすべきであると教わりました。今のうちに、相手の価値観を許容する練習、例えばいつもとは違う友達と触れ合うなどをしていくことをチャレンジしてみる事が大事であるそうです。私はこの話を聞いて、相手の良いところを知るコミュニケーションをとれるよう、この高校生活でいろんな人と話をして、いろんな人の価値観を知っていききたいと思いました。知らない世界に一步踏み込み、相手について知ったうえで、自分との共通点を引っ張り出したりして、話を膨らませていくコミュニケーションができるよう、これからの生活で訓練していこうと思えます。

私は、このディレクトフォースで、このような多くの事を学ぶことが出来ました。このような素晴らしい方々と会話ができたこの時間はとても貴重な経験だったと思えます。今回学んだことを無駄にしないよう、これからの高校生活を自分でしっかりと考えて生活して行きたいです。